

■2021年2月24日15:40-

■進路・就職支援センターより2020年度法学部生の就職状況、公務員の合格状況等について報告を受け、今後の授業等における指導のあり方について議論をおこなった。

■就職の概況

・コロナ禍にあり、従来とは就活のあり方が変容（オンライン化）する中、就活そのものを諦める学生も見受けられた。友人と情報を共有し、ともにモチベーションを高めることがオンライン授業の中では難しかった。

・諦めずに活動した学生については、昨年度に比べわずかにポイントが低い程度であった。

・来年度はさらに厳しくなることが予想される。早期に学生の動向を把握し、困っている学生にアプローチすることが重要。

■公務員志望者について

・昨年度に比べて合格状況が躍進した。

・内訳も良くなっている

・4年次生を見ていると、変わってきていると思われるところ

ゼミでの学びなどを通じて、公務員でやりたい仕事、社会への関心を高めている
粘り強いところが本学の学生の特徴、いくつも受けて12月に内定をとった学生が多かった

一人では頑張ることができないので、友人や先生、センターなど、どこかにつながりがあることが重要

・教員への期待

集団討論、グループディスカッションが増えている。

日頃のゼミなどで、社会問題に関心を持たせ、発話をする機会・能力を高めてほしい。

■まとめ

・公務員志望者の今の流れを維持するためには、教育との連携で学生の力を底上げす

ることが重要。

※教授会後の約1時間であったが、進路・就職支援センターのまとまった報告と活発な意見交換により充実したスタッフセミナーであった。公務員合格者増に向けたこれまでの取り組みの成果が確認できたとともに、今後は、ゼミなど通常の授業において知識を修得させるだけでなく、社会問題に関心を持たせる工夫が必要であるとの課題に気付かされた。